

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503924		
法人名	有限会社 アイ		
事業所名	グループホーム 澄川の丘：2階 ほたる		
所在地	札幌市南区澄川6条7丁目1番1号		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスと併設しており、その中においての交流もあり社会性の維持にも繋がっている。また、環境面においても中学校がとて近く、朝夕と学生のにぎやかな声に自然と笑顔が出てきます。放課後には、部活動の姿を見に行ったり、吹奏楽の音が聞こえてきます。また、合唱コンクールへ参加したり地域とのつながりを大切にしております。 ホームの前には栗林が広がっており春には、鮮やかな緑の葉をつけ、夏には栗の木の下でくつろぎ、秋には実りを収穫し、冬には白く雪化粧した栗林をみると四季を感じることが出来ます。こんなホームで私たち職員は入居者様から多くのことを学びながら、共に支えあい生活しております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503924&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念に基づきそれぞれのユニットごとにもそれぞれの理念があり質の良いサービスの向上のため目標を共有している。定期的に各ユニット合同の申し送りの際に事業所全体の理念・各ユニットの理念を日ごと順番に読み上げ理念に基づいたケアの提供、運営理念の現実に取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し会合・行事(運動会等)・清掃活動に参加するよう努めている。運営推進会議にも町内の役員さんに参加して頂き、良好な関係の構築に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の特技を活かしたボランティアの方の受け入れにより、認知症の方々支援方法をお伝えしている。又、小学生・中学生の体験実習の受け入れも積極的に行なっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の活動報告・事故報告を行い聞いていただくことで緊張感を持ち、新たな気持ちで行なっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員の体調やストレスに気を配り、また処遇改善交付金を活用し労働条件の改善を図っている。出産休暇、育児休暇の取得も出来、女性が働きやすい環境にある。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修(勉強会)の実施、外部研修に於いても職員のスキルにあった研修の参加や自主的な参加希望に対しても、研修費や交通費の支給もしている。また、年に1度北欧(スウェーデン、ノルウェイ他)への研修にも参加している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域の連絡会議や南区の一部地域で計画作成者の勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を理解しつつ働いている職員は少ないのが現状であるも、講習会などに参加し話し合う機会を設け必要な知識を習得出来るよう努力はしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書は、場を設け説明している。利用者様家族の希望を十分に聴き、納得してもらった上でサービスが利用できるようにしている。出来ない事の説明は医療面での限界がある事もお伝えしている。利用者の状況変化による契約解除に至る場合は、本人、家族、主治医と話し合い段階、期間を経て対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、職員と利用者間で常に話し易い状況を保つ努力をしている。職員間でもミーティング、カンファレンス等で話し合っている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月1回のカンファレンスにて、その都度必要に応じて意見交換できるようになっている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	互いに良い点、悪い点を話し合い、励ます環境に取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会等の参加機会を知らせている。職場内での勉強会を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度管理者会議参加し、他のホームとの情報交流を行っている。わからない事等気軽に相談できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人にお会いし、全身状況、身体や認知状況を確認し不安、求めている事等理解し、本人の気持ちを第一に考えたケア、又はケアプラン作成につなげられるよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの中で要望又は不安などに関しての解決が安心と信頼関係の構築には不可欠なものと考えているため、受け止める努力していく。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は可能な限り柔軟な対応をし、家族とよく話し合い本人と家族のよりよいサービスを考え場合によっては地域包括支援センターや当サービス、他事業者のサービス提案等をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来る事を見極め楽しみながら、時には昔を思い出しながら支え合いながら生活している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との想いを、把握しケアの提供をしている。家族の方に行事などお知らせし、参加して頂き、本人と楽しみ、喜びを共に分かち合えるよう配慮している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方への配慮を忘れず面会時には、ゆっくりと過ごして頂ける様、環境づくりに心がけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の場所、行動や外出などの際にも利用者、同志の関係を考え一緒に座る方、外出場所など考えている。孤立しない様、スタッフが寄り添い支え合う。気を使わない環境作りに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した利用者には時々、見舞いに行き、様子を気に掛けるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、好きな事・楽しめる事を計画し、本人の希望する生活スタイルに近づける様努力している。毎日、レクリエーションを実施し月に一度は外出などを実施している。日頃の関係作りから、未然に防ぐトラブル防止を、継続したい。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、日々のコミュニケーションの中から把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートを利用し、職員間の声かけ等を密にし現状を把握する様に努める。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや、カンファレンスで現場内での意見交換や課題への取組みと、施設内の他の意見も聞き、介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活記録に毎日記録し、その他、受診や、排泄、水分摂取、バイタル、特変、気づきなども記録し情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に数回、体操教室、コーラスの会、ボランティアによるレクリエーション活動をサービスにておこなっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の高校生が週に2度、ボランティアに来てくれるコミュニケーションを楽しみにしている。防災訓練、緊急時対応については、消防の方にご指導をいただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の往診を行っており、体調不良時には、看護師と相談をし家族への連絡を経てかかりつけ医に電話連絡又は受診し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康状況・体調経過などについての相談・報告がその都度出来ている。又看護師が近隣在住にて緊急時にもスムーズに対応できる体制となっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を作成し現状の報告をその都度行なっている。又職員が可能な限り面会に伺い現状の把握・医療機関との情報交換・相談が可能となる様に努めている。協力病院のDrも認知症の症状も理解して頂いていて、状況に応じた指示をしてもらい、入院時にも早期退院に向け通院でフォローできる場合はその様にしている。Drの了承の基、利用者さんが出来るだけ混乱の少ない状況にて退院へと繋がる様支援している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に関わる指針」を作成し家族からの了承を得ている。今後も状況に応じその都度家族・職員間の話し合いの場を設け対応していきたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急講習を受講している。緊急時のマニュアルも作成されており、各部署にもマニュアルがすぐ見える場所に掲示されている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年に2回防災非難訓練を実施している。防火管理者も配置され緊急時の連絡マニュアルに応じ緊急時には即連絡できるようになっている。又セコムへの加入によりセコムの自動システムもあり安心して生活して頂いている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりその方の体調や状況にあった対応と声掛けを行なっている。又個々の情報の取り扱いにも十分注意している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを日々のコミュニケーションの中から把握し、大切に意思・意向・希望を叶えられるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、本人の思いや体調に応じ何事も強制する事無く生活して頂いている。外出等の希望にも可能な限り個別に対応している。状況に応じ各部署との協力を経て対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ馴染みの美容室へ行って頂きおしゃれを楽しんでいただけるようにしている。又定期的にお化粧ボランティアの方も来られ、日頃お化粧をする機械のない方もお化粧を楽しんでいる。又、希望の服を着ていただいたり、整容に関しても見守りや支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを書いて頂いたり、テーブルふき、茶碗ふき等、出来る事をして頂きながら準備や、後片付けをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューが偏らない様に、考えながら作っている。本人が苦手な物等は別に作りみなどで楽しく食べることができるよう工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人での口腔ケアの難しい方には、職員が介助で行い清潔を保てる様にしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方の、トイレのサイクルを把握し誘導をしながら自立できるようサポートしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、マッサージをして便意を促している。ヨーグルト・オリゴ糖など食品の促しも行っている。便秘がちな方には主治医の指示の下に内服調整している。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の意思を大切にしながら入浴して頂いている。チェック表も使用し全員が清潔に過ごして頂けるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員が自室・リビングを自由に行き来され各自落ち着く場所でくつろがれている。自室でも馴染みの物を使用して頂いている事で安心して気持ちよく眠られている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については各自説明書にて薬の内容を理解し内服介助し、身体状況の変化を見逃さないように努めている。又、内服時のチェックを重ねて行い内服支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日2回の体操を基本にレクリエーション・演芸訪問などもあり楽しく過ごされている。又、創作活動や散歩・塗り絵・DVD鑑賞など個人の好みに合った活動を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のコミュニケーションの中から、行きたい場所・したいことを出来るだけ把握し、近所の公園への散歩や季節に応じた外出を企画し外出している。又、時には家族の協力を得ている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の金銭管理能力・希望に応じお金を所持して頂いている。又希望に応じ買い物にも出かけ使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙のやり取り、電話のの取次ぎもその都度行なっている。希望によりホームの電話もしようして頂けるようになっている。個人で携帯電話を使用されている方もいる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入居者様と一緒に作成した飾り物を飾ったり、花や小物を置き季節感を感じられるようにしている。居間は明るく開放的で大きな窓があり町並みが見渡せ季節感・生活感を大切に居心地の良い空間となる様工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ラウンジ・和室・廊下にソファがあり自由にゆっくりと過ごせるようになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自由に私物を持ち込んでいたでいる為、昔から使い慣れたタンス・仏壇・置物などを好きなときに手に取り生活されている為居心地の良い空間となっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに分かりやすく張り紙をしたり、居室前に表札を付けたり、好みのものを置いていただくことで生活しやすい環境をつくり、自立した生活へと促している。		